

広報青少年版

144号

考えてみよう 自分が作る会社

今回のテーマは、南高津小学校の石坂雪さんが考えてくれた「会社を作るとしたらどんなことをする会社？」を参考にしました。自分のアイデアを形にする会社を考えて、そこでどんなことをしたいか記者が書いてくれました。なお、紙面の都合上掲載ができなかった記者の記事は、市ホームページに掲載しています。

動物が安心して暮らせるように



睦小 飯島 颯太

僕が作りた会社は、絶滅の恐れのある動物や命が危ない動物を救う会社です。この間あった英語の授業で、地球の環境問題について発表する機会がありました。その際、地球上のほとんどの動物が安心して暮らせていないことを知りました。例えば、ウミガメはプラスチックゴミを食べてしまう問題、ホッキョクグマは地球温暖化で生活の場が奪われてしまっている問題などがありました。そのため、僕が作る会社では、4Rの実行や節電、再生可能エネルギーの開発など、SDGsに関係する事業をすることで、この地球にいる動物たちが少しでも安心して暮らせるようにしたいです。

農業問題改善



勝田台小 萩原 正太郎

僕がもし会社を作るとしたら、「農業で困っている人びとを助ける会社」を作りたいです。なぜなら農業に関する社会問題が多くあるからです。例えば農業を営む人の減少、気象変動による農作物への影響など、さまざまな問題があります。この状況を少しでも改善できたらいいなと思います。僕はこの会社で農業を手伝う人の派遣、機械の貸し出し、農作物の販売など、さまざまなことを行っていきます。この会社を通して日本の農業がよりよくなり、おいしい農作物が食卓に並ぶことを願っています。

楽しい子育て応援団を作る会社



南高津小 石坂 雪

私がもし会社を作るなら、育児を助ける会社を作りたいです。最近子どもがぎゃく待たされてしまう事件が多いです。その原因の一つは、子育てのストレスだと私は思います。赤ちゃんを産むと、夜泣きやミルク、離乳食の好ききらいをされたり、頼れる人がいなかったりと、たくさんの悩みや不安が生まれると思います。そんな子育てを楽しく乗り切るために、私は、相談に乗ったり、子どもを一日預かったり、子育てについて学び、アドバイスをするなど、お母さんお父さんに寄りそう、そんな会社を作りたいです。

野菜果物分析ゴーグル



村上北小 宮崎 汐里

私が作りた会社は、外から見ても甘みやおいしさ、鮮度の分からない野菜や果物をすぐに判別できるゴーグルを

開発する会社です。なぜこれを作りたかという、家でりんごを食べた時、食感や甘さが違って、食べるならおいしいものを食べたいという消費者側の理由と、私の家は梨屋をやっている、売り物になるもの、ならないものを区別する仕事があるので、少しでも便利に作業してほしいからです。野菜や果物にくわしくなく、だれでも使える便利な商品にしたいです。

届け！世界記録



萱田小 大寺 航世

僕は、公式大会では使えない代わりにとても高性能なスポーツ用品を作る会社を作りたいです。そう考える理由の一つ目は、人間の限界を見てみたい、ということです。5月にさまざまな技術を駆使して世界記録を目指す大会があり、実際に多くの選手が参加するそうです。僕もスポーツ用品を作ることを通じて、人間の限界を目指す人の協力をしたいです。二つ目は、より白熱した試合を見てみたいということです。例えば、サッカーやバスケの特ダシュートや、野球の豪速球など、見どころがずっと続くような試合を一度は見てみたいです。

この観光地、空いています！



萱田南小 賀久 みのり

私は、観光に訪れた人に空いている名所をおすすめする会社を作りたいです。京都や富士山などに旅行者が集中しすぎて、住民の生活を圧迫し、文化財や自然環境を守ることが難しくなっています。そこで、穴場スポットを紹介したり、混雑していない名所に誘導したりして旅行者を分散できないかと考えました。地域住民の生活や文化を守りつつ、旅行者にまた訪れたいと思ってもらえるような仕組みが必要だと考えます。八千代市は観光が盛んとは言えないので、旅行者の受け入れ先になるスポットがあるといいですね。

言葉だけでは難しいことでも



八千代台東小 大西 陽奈子

私が会社を作ったら、人の頭の中の世界に行ける道具を開発したいです。人は価値観や考え方の違いから意見がすれ違ってしまふことが多くあります。そんな時、無理やりに解決しようとするのではなく、お互いが望む結果の世界を実際に体験することで、意見を言葉に表すのが難しい場合でもわかり合うことができるのではないかと考えました。そのほかには外国人など言語の壁のある人にも関係なく通じ合うことができるのも魅力の一つと言えます。

苦にならない薬



八千代中 岸元 亮太郎

皆さんは苦い薬を飲む時にためらったことはありますか？多くの人が病気を早く治したいけど苦い薬は飲みたくないという経験があると思います。僕は病気の辛さを減らすために薬を飲みやすくしたいです。そのためには、楽しみとあわせることが必要だと考えました。そこで、食事に混ぜて、おいしく食べながら薬を飲むことができる商品を開発し、普及させたいです。また、食材の中に入れて届かせたい部位の他には効果を出さず、副作用を抑えられるようにして、病気と闘う人の苦痛を少しでも減らしたいです。

「人」と「本」をつなぐ会社



萱田中 高塚 みう

私は、「人」と「本」をつなぐ会社を作りたいです。この会社では、人びとにたくさんの本を読んでもらえるような企画を立てます。例えば、おすすめの本を雑誌やインターネットに掲載したり、紹介したりします。また、お客様の悩みや、読みたい本の種類などをお聞きし、それに合わせた本を選ぶ、選書サービスも行います。近年、SNSの普及などにより、読書率が低下しています。そこで、本を手取るきっかけを作り、お客様に充実したひとときと、豊かな人生を提供したいです。



優しい文房具会社



睦中 小沼 咲希

私は、「少し元気が出る文房具」を作る会社を作りたいです。皆さんは、友人の些細な言葉がモチベーションになったり、落ち込んだ時に前を向く理由になったりした事ありませんか？そこで、考えたのが「少し元気が出る文房具」です。例えばボールペンを買ったとき、「おつかれ様」や「時には休んで」などが書いてある小さな手紙が入っていたら、「少し元気が出る」と思いませんか？ちょっと前を向くことができたりすると思いませんか？私はそんな文房具を作る会社があったら、たくさんの人を喜ばせられると思いました。